

鈴木新夫展

誕生110周年

— 画家のまなざし描くところ —



（姉妹）九七年個人蔵

2025年10月21日|火| — 12月14日|日|

開催時間=9:00-16:30 休館日=月曜日(11月3日・24日を除く)、11月4日[火]・25日[火] 主催=豊島区 協力=いわき市、いわき市立美術館

豊島区立郷土資料館

〒171-0021 豊島区西池袋2-37-4 としま産業振興プラザ(IKE・Biz)7階 TEL. 03-3980-2351
JR・地下鉄・私鉄「池袋駅」西口から徒歩7分(駐車場はありませんので、公共の交通機関をご利用ください)

この度、洋画家・鈴木新夫（1915-1980）の生誕110周年を記念して、東京初となる回顧展を開催いたします。福島県いわき市出身の鈴木新夫は、1939年にさくらが丘パルテノン（豊島区長崎二丁目）へ転居してから逝去まで、画業のほぼすべてを豊島区の地で過ごし、制作を続けてきました。戦前から戦後にかけて、郷里の常磐炭鉱や近代化され変わりゆく東京の風景、工事現場などを取材。作品の主題は、風景を描くことから次第に、労働者、家族へと移り変わり、時に人知れず咲いている野の花や食卓に供した魚の骨など、日常にある何気ない光景に眼差しが向けられています。

その作品は、丹念なデッサンによって裏打ちされた確かな絵画技法や、独自のマチュールで描かれており、描かれた対象の本質を浮かび上がらせつつも、静逸さと穏やかさを醸えるものです。「描くとは」という命題にひたむきに向き合った鈴木新夫の画業を展覧します。



鈴木新夫

Arai Suzuki (1915-1980)

ARAO.

福島県いわき市出身。

1931年 旧制磐城中学校（現県立磐城高校）卒業。

1933年 東京美術学校（現東京藝術大学）図画師範科に入学。豊島区池袋の地藏堂（現千早一丁目付近）にアトリエを借りる。

1937年 第2回新制作協会展出品、以後、第43回まで出品。

1939年 さくらが丘パルテノン（長崎二丁目）に転居。
1947年 第11回新制作協会展にて、『機関庫』『筏のある風景』他1点を出品、新制作協会賞受賞。

1949年 平市（現いわき市）で初の個展。福島市、郡山市を巡回。以後、北海道、東京にても個展多数。

1955年 新制作協会会員に推挙。

1980年 5月逝去。9月第44回新制作協会展にて遺作展示。

1995年 いわき市立美術館にて回顧展「鈴木新夫展 優しさと厳しさと…具象にかけた生涯」開催。

●関連イベント 参加費：無料 事前申込み ※詳細は豊島区ホームページをご覧ください

講演会

「美術と修復 —《機関庫》と《うしろむき》—」

講師：渡邊 郁夫氏（有限会社 修復研究所21 所長）

日時：2025年11月8日（土）14:00-15:30 定員：50名



豊島区HP

ワークショップ

講師：山口 心湖氏（洋画家）

①「こどもモンパルナス—エコロジーアート・ヒロタージュを作ろう!」

対象：幼稚園～小学校低学年まで

日時：2025年11月15日（土）14:00-15:30 定員：10名

②「描くということ—デッサン入門」

対象：小学校高学年から大人まで

日時：2025年11月24日（月・祝）13:30-15:30 定員：10名

※会場は、いずれも、としま産業振興プラザ（SMP）にて受け付けます。2025年10月1日よりWEBで応募者多数の場合には、抽選となります。



1 《機関庫》1947年 いわき市立美術館蔵 2 《ゴンドラ》1966年 いわき市立美術館蔵 3 《うしろむき》1969年 豊島区蔵 4 《赤い手袋》1948年 個人蔵
5 《夢中》制作年不詳 個人蔵 6 《還炭する女》1955-1956年 いわき市立美術館蔵 7 《ヒロタージュ・電球ぶく》制作年不詳 個人蔵

豊島区立郷土資料館

〒171-0021 豊島区西池袋2-37-4 としま産業振興プラザ（IKE・Biz）7階 TEL. 03-3980-2351

[交通のご案内] JR・地下鉄・私鉄「池袋駅」西口から徒歩7分（駐車場はありませんので、公共の交通機関をご利用ください）



豊島区HP



豊島区立郷土資料館



豊島区立郷土資料館



IWAKURA CITY



2020-2025



20th Anniversary



TOSHIMA CITY



SDGs未来都市としま



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



4



としま産業振興プラザ（IKE・Biz）7階 郷土資料館

